

DPMに同梱しているJREのアップデート版が公開されている場合があります。
詳細は、以下を参照ください。

▶ <http://www.oracle.com/technetwork/jp/java/javase/downloads/index.html>

※上記サイトに記載のバージョン以外についても以下の手順を参考して最新バージョンにアップデートすることを推奨します。

■ 対象製品

- SystemGlobe DeploymentManager Ver3.0以降の製品
- DeploymentManager 3.8 Standard Edition (以下SE)/Enterprise Edition (以下EE)から DeploymentManager Ver5.1、5.2 for SSCの製品まで

■ 注意事項

■ JREのアップデートは、パッチリリースの範囲内にしてください。

DPMのバージョンによって使用するJREのバージョンは異なります。
JREのアップデートは、パッチリリースの範囲内にするように注意してください。

- DPM Ver4.1以前、4.2 for SSC以前を使用している場合:JRE 1.4.2
- DPM Ver4.3 for SSCを使用している場合:JRE 1.5.0
- DPM Ver5.0以降、5.0 for SSC以降:JRE 6

※「for SSC」は、SigmaSystemCenterに含まれるエディションまたは、アップデートモジュールになります。

[例]

- JRE 1.4.2_XX
- JRE 6.0 UpdateXX

XXは2桁の数字でパッチリリースのバージョンを表します。
これ以外にJREのバージョン変更(JRE1.4.2からJRE5.0への変更等)をすると DeploymentManagerが正しく動作しなくなる場合があるため行わないでください。

■ 旧バージョンのJREについて

JREのアップデートを行う場合には、事前に旧バージョンのJREをアンインストールしてください。
アップデート後にアンインストールを行うと、Webコンソールが表示できなくなる場合があります。
その場合には、再度JREをインストールしてください。

■ DPM Ver5.1(REVISION:003)以前/5.21 for SSC以前の製品にて、JRE 6.0 (Update10以降)を適用した場合の注意事項

DPM Ver5.1(REVISION:003)以前/5.21 for SSC以前の製品(※)を使用している場合にJRE 6.0 (Update10以降)を適用するとJRE 6.0 Update10で強化された「次世代 Java Plug-in」と、「Windows 上での署名されていないJava アプレットウインドウの変更」について、DPMの画面表示に関する以下の現象が発生します。(DPMの動作上の問題はありません。)
JRE 6.0 Update10の詳細については、JRE 6.0 Update10のアップデートリリースノート (<http://java.sun.com/javase/ja/6/webnotes/6u10.html>)を参照してください。

それぞれの発生現象と回避策の概要を以下に記載します。
下記のサイトを参照して、必要に応じて設定を変更してください。

▶ <http://www.java.com/ja/>

■ 次世代 Java Plug-in

発生現象:既に表示している画面の後ろに新しい画面が表示されます。

回避策 : 以下のページを参考にして「次世代のJava Plug-inを有効にする(ブラウザの再起動が必要)」のチェックを外してください。

▶ http://java.com/ia/download/help/new_plugin.xml

※JRE 6.0 Update30以降のバージョンを使用している場合は、上記設定のチェックを外さないでください。

■ Windows 上での署名されていないJava アプレットウィンドウの変更

発生現象: Java アプレットウィンドウ(ダイアログボックス等)の右上隅に警告アイコンが表示されます。

回避策 : 以下のページを参考にしてポリシーファイルを作成し適用してください。

▶ <http://java.sun.com/javase/ia/6/docs/ia/technotes/guides/security/PolicyGuide.html>

※以下のいずれかの製品を使用している場合となります。

- DPM Ver5.1 (REVISION:003)以前
- DPM Ver5.21 for SSC以前

※REVISIONは、製品CD-ROMのラベルに記載しています。

※「for SSC」は、SigmaSystemCenterに含まれるエディションまたは、アップデートモジュールになります。

■ JRE 6.0 Update 24～Update 29 を適用した場合に発生する問題について

これらのバージョンのアップデートを適用した場合には以下の現象が発生する場合があります。

- ライセンス登録情報画面を閉じると、以下のエラーメッセージが表示される。
Webサーバへのアクセスに失敗しました。
- 更新モードの状態でWebコンソールを閉じて新しいWebコンソールを起動した場合、以下のエラーメッセージが表示されて更新モードにできない。
<ホスト名>を更新モードで運用しているコンソール(TIDXXXXXXX)が存在するため、更新モードに変更できません。

本現象が発生する場合は以下を実施することにより回避できます。

- JRE 6.0 Update 30以降のバージョンを適用し、以下の手順で「次世代のJava Plug-inを有効にする」を有効に設定してください。
 1. 「Java コントロールパネル」を表示します。
 - IA32 アーキテクチャマシンの場合:「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「Java」を選択します。
 - EM64T アーキテクチャマシンの場合:<JRE インストールフォルダ>\bin\javacpl.exe を実行します。
<JRE インストールフォルダ>の既定値は、「C:\Program Files (x86)\Java\jre6」です。)
 2. 「詳細」タブを選択し、「Java Plug-in」の「次世代の Java Plug-in を有効にする(ブラウザの再起動が必要)」のチェックを入れます。
 3. 「了解」ボタンをクリックして「Java コントロールパネル」の画面を閉じます。
- WebコンソールのURLには“IPアドレス”か“ホスト名”を入力してください。“localhost”は使用しないでください。

■ アップデート手順

以下にアップデート手順の例を記載します。

以降の説明については、XXを適用するパッチリリースのバージョンに適宜読み替えてください。

■ JRE6.0系の場合

※IA32アーキテクチャマシン/EM64Tアーキテクチャマシン共通の例となります。

1. JRE6.0 UpdateXXの入手

※例として、JRE6.0 Update29の入手方法を記載します。URL/手順については変更されている場合がありますので、適宜読み替えてください。

1. 下記のサイトから、JRE6.0 UpdateXX(jre-6uXX-windows-i586.exe)を入手します。

<http://www.oracle.com/technetwork/jp/java/javase/downloads/index.html>

→画面中央に表示されている「Download」ボタンを選択

2. 記載内容(使用許諾を含む)を確認して、同意する場合は、「Accept License Agreement」を選択後、「jre-6uXX-windows-i586.exe」をクリックして、ダウンロードします。
2. Webサーバ for DPMのJREのアップデート
 1. Webサーバ for DPMがインストールされたコンピュータにAdministrator権限を持つユーザー(通常はAdministrator)でログオンしてください。
 2. Apache Tomcatサービスを停止してください。
また下記コンソール等が起動している場合には終了してください。
 - Webコンソール
 - イメージビルダー
 - PackageDescriber
 3. 「1.JRE6.0 UpdateXXの入手」で入手したファイルを任意のフォルダにコピーして、実行してください。後は画面に表示される手順に従ってインストールを行ってください。
 4. JREのインストール完了後、以下のレジストリの「値」を以下のように編集した後に、Apache Tomcatサービスを開始してください。
 - IA32アーキテクチャマシンの場合
キー名 : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Apache Software Foundation\Procrun 2.0\Tomcat6\Parameters\Java
名前 : Jvm
値 : C:\Program Files\Java\jre6\bin\client\jvm.dll
 - EM64Tアーキテクチャマシンの場合
キー名 : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Apache Software Foundation\Procrun 2.0\Tomcat6\Parameters\Java
名前 : Jvm
値 : C:\Program Files (x86)\Java\jre6\bin\client\jvm.dll

〈補足〉

- レジストリの変更はレジストリエディタを使用して行うことができます。レジストリエディタは「スタート」メニュー → 「ファイル名を指定して実行」に「regedit」と入力して「OK」ボタンをクリックすると起動します。
- レジストリに対する操作は、間違えた場合などにシステムが正常に機能しなくなるなどの危険が伴いますので、変更する際には十分注意して行ってください。

5. ユーザーズガイド 導入編「2.1.1 Webサーバ for DPM の標準インストール」(13)から(19)を参照してJavaの設定を行ってください。
3. WebコンソールのJREのアップデート
 1. WebコンソールがインストールされたコンピュータにAdministrator権限を持つユーザー(通常はAdministrator)でログオンしてください。
 2. 下記コンソール等が起動している場合には終了してください。
 - Webコンソール
 - イメージビルダー
 - PackageDescriber
 3. 「1.JRE6.0 UpdateXXの入手」で入手したファイルを任意のフォルダにコピーして、実行してください。後は画面に表示される手順に従ってインストールを行ってください。
 4. ユーザーズガイド 導入編「2.1.1 Webサーバ for DPM の標準インストール」(13)から(19)を参照してJavaの設定を行ってください。

〈備考〉

管理サーバ for DPM、イメージビルダー(リモートコンソール)、PackageDescriberについても、Webコンソールの手順と同様となります。上記「3. WebコンソールのJREのアップデート」を各コンポーネントに読み替えてJREをアップデートしてください。なお、複数のコンポーネントを同一コンピュータにインストールしている場合は、一旦JREをアップデートした後は、コンポーネント毎にJREをアップデートする必要はありません。

■ JRE1.4.2系の場合

※IA32アーキテクチャマシンのみの例となります。

1. JRE1.4.2.XXの入手
※URL/手順については変更されている場合がありますので、適宜読み替えてください。
 1. 下記のサイトから、JRE1.4.2_XX(j2re-1_4_2_XX-windows-i586-p.exe)を入手します。<http://www.oracle.com/technetwork/java/javasebusiness/downloads/java-archive-downloads-javase14-419411.html>
 2. 記載内容(使用許諾を含む)を確認して、同意する場合は、「Accept License

「Agreement」を選択後、「j2re-1_4_2_XX-windows-i586-p.exe」をクリックして、ダウンロードします。

2. Webサーバ for DPMのJREのアップデート

1. Webサーバ for DPMがインストールされたコンピュータにAdministrator権限を持つユーザー(通常はAdministrator)でログオンしてください。リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート管理ソフトを使ってログオンしないでください。
2. Apache Tomcatサービスを停止してください。
また下記コンソール等が起動している場合には終了してください。
 - Webコンソール
 - イメージビルダー
 - PackageDescriber

3. 「1.JRE1.4.2_XXの入手」で入手したファイルを任意のフォルダにコピーして、実行してください。後は画面に表示される手順に従ってインストールを行ってください。

〈注意〉

j2re-1_4_2_XX-windows-i586-p.exeを実行した場合に、「コンバートに失敗しました」というメッセージが表示される場合があります。この場合はもう一度ファイルを実行してください。

4. JREのインストール完了後、以下のようにレジストリの値を編集して、Apache Tomcatサービスを再起動してください。

キー名: HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Apache Tomcat 4.1\Parameters
名前: JVM Library
値: "C:\Program Files\Java\j2re1.4.2_XX\bin\client\jvm.dll"
〈補足〉

- レジストリの変更はレジストリエディタを使用して行うことができます。レジストリエディタは「スタート」メニュー → 「ファイル名を指定して実行」に「regedit」と入力して「OK」ボタンをクリックすると起動します。
- レジストリに対する操作は、間違えた場合などにシステムが正常に機能しなくなるなどの危険が伴いますので、変更する際には十分注意して行ってください。

3. WebコンソールのJREのアップデート

1. WebコンソールがインストールされたコンピュータにAdministrator権限を持つユーザー(通常はAdministrator)でログオンしてください。リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート管理ソフトを使ってログオンしないでください。
2. 下記コンソール等が起動している場合には終了してください。
 - Webコンソール
 - イメージビルダー
 - PackageDescriber

3. 「1.JRE1.4.2_XXの入手」で入手したファイルを任意のフォルダにコピーして、実行してください。後は画面に表示される手順に従ってインストールを行ってください。

〈注意〉

j2re-1_4_2_XX-windows-i586-p.exeを実行した場合に、「コンバートに失敗しました」というメッセージが表示される場合があります。この場合はもう一度ファイルを実行してください。

4. ユーザーズガイド 導入編「2.3 Webコンソールのインストール」(7)から(12)を参照してJavaの設定を行ってください。

〈備考〉

管理サーバ for DPM、イメージビルダー(リモートコンソール)、PackageDescriberについても、Webコンソールの手順と同様となります。上記「3. WebコンソールのJREのアップデート」を各コンポーネントに読み替えてJREをアップデートしてください。なお、複数のコンポーネントを同一コンピュータにインストールしている場合は、一旦JREをアップデートした後は、コンポーネント毎にJREをアップデートする必要はありません。